



震災16年目の日に最近の活動が毎日新聞に掲載されました

「災害時医療支援船構想」の活動については、震災から16年目の1月18日付け毎日新聞（朝刊 第一面全国版）に紹介されていますように、災害時に透析患者さんを近郊の医療施設に船で搬送する事業が、兵庫県透析医会と連携して継続されていますが、昨年秋から患者さんの対象を難病患者さんにも拡充する方向で検討が進められています。

兵庫県透析医会で月一回のペースで行なわれる実行委員会では、腎友会や難病連など患者さんの団体も参加して協議が進められています。この活動のスタートとして2月3日に、兵庫県難病団体連絡協議会が主催するシンポジウムが、神戸市勤労会館で行なわれます。このシンポジウムでは井上欣三名誉教授がパネリストとして講演が予定されています。

■毎日新聞記事

1 14版 2011年(平成23年)1月18日(火)

毎



1月18日(火)

2011年(平成23年)

発行所：大阪市北区梅田3丁目4番5号
〒530-8251 電話(06)6345-1551
毎日新聞大阪本社

阪神大震災16年

関西・

透析患者向け支援拡大

災害時に人工透析が必要な腎臓病患者を船で被災地外に運ぶ「災害時医療支援船事業」について、神戸大の研究者や兵庫県透析医会などで行う実行委員会は、対象を他の難病患者にも広げようとした。

透析患者は、週に2〜3回、病院に通って血液を体外に引き出して機械で浄化して戻す人工透析治療を受けており、全国で約20万人、兵庫県で1万2000人いるとされる。16年前の阪神大震災では、かかりつけの病院が被災し、透析を受けられなくなった患者らが苦勞した。

こうした教訓から、日本透析医会と神戸大学院海事科学研究科の井上欣三名誉教授（海上交通工学）のグループが04年に協定を締結。同大の練習船「深江丸」（449ト）で透析患者を被災地外へ運ぶ事業がスタートした。05年から3年間、参加するまでになっている。

実行委員会は震災15年を機に、事業拡大を検討。阪神大震災では、建物の倒壊などの直接的な要因以外に避難生活などで持病を悪化させて死亡するなどの関連死が兵庫県で919人に上ったことなどを重視し、新たに難病患者らへの支援を進めることに。実行委には、昨年から兵庫県難病団体連絡協議会も参加させている。

【内田幸一】

同協議会の米田寛子事務局長は「避難の選択肢が広がることは非常に心強い」と期待を寄せている。

■シンポジウムポスター

難病患者の災害支援

ひょうご安全の日推進事業

と き 平成23年2月3日 (木) 18:00～20:30

ところ 神戸市勤労会館 3階 講習室308



シンポジウム

座長 元町HDクリニック 院長 申 曾 洙

テーマ 災害弱者たる難病患者の総合的支援活動

1. 災害時医療支援のあり方

赤塚クリニック 院長 赤塚 東司雄

2. 災害時における海上からの支援について

神戸大学 名誉教授 井上 欣三

3. 難病患者の災害時支援について

阪神高齢者・障害者支援ネットワーク

理事長 黒田 裕子

主 催 兵庫県難病団体連絡協議会
NPO法人 神戸市難病団体連絡協議会

後 援 兵庫県・神戸市
兵庫県医師会・神戸市医師会
兵庫県社会福祉協議会
神戸市社会福祉協議会
神戸大学大学院医学研究科



